

活動タイトル	不登校者等を対象とした就業体験プログラムの構築および実施		団体名	NPO法人ターサ・エデュケーション				
<p><b>1年間の活動（アウトプット）の目標（事業全体）</b></p>	<p>0. 事前準備:スタッフ間の目的共有・役割の明確化、企業用の説明資料作成、プログラム参加者募集のチラシ等作成</p> <p>1. 協賛企業の募集：インターネット・SNSを利用した協賛企業募集の働きかけ、企業訪問・電話連絡等</p> <p>2. プログラム内容構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就業体験前後プログラム：当法人が実施するプログラム、キャリア教育に携わるNPO法人等と連携し、就業体験の効果が測れるプログラムを構築する。</li> <li>・就業体験（本番）プログラム：企業見学、就業体験内容・日程や定員の調整</li> </ul> <p>3. プログラム参加者の募集</p> <p>インターネット・SNSの発信、教育委員会や学校、適応指導教室への訪問、不登校支援団体への働きかけ</p> <p>4. 就業体験前プログラムの開催</p> <p>5. 就業体験（本番）プログラムの実施</p> <p>6. 就業体験後プログラムの開催：目標達成度を振り返る。感じたことなどを互いに発表し共有する。お礼の手紙を届ける。</p>			<p align="center"><b>■ 活動風景</b></p>				
	<p align="center"><b>■ 活動報告</b></p> <p>1年間をとおして就業体験プログラムの構築と実施について、次のとおり取り組みました。プログラムについては4回実施し、子どもたちにとってベストな就業体験となるよう、それぞれ違うパターンで行い、延べ13名の児童が参加しました。</p> <p>○1回目については、対象は小学校5年生以上の年齢という条件以外は設けず、就業体験前後のプログラムを体験日とは別に設定し、体験日を含め3日間にわたる方法で実施しました。この方法は子どもたちがすべての日程に参加することが難しく、効果的ではありませんでした。</p> <p>○2回目は、企業担当者を講師として招き実施しました。企業担当者と事前に会い説明を受けることで、子どもたちは安心感を得て、就業体験日当日に欠席する子どもはいませんでした。しかし、企業担当者に自ら足を運んでもらうことを前提にプログラムを組むことは現実的ではないと判断しています。</p> <p>○3回目は、就業体験に参加する子どもをフリースクールを利用している子どもに限定して実施しました。子どもたちがフリースクールを利用する日に「就業体験前後のプログラム」を埋め込むことにより、プログラムを円滑に実施することができましたが、子どもたちが来る曜日が異なることもあり、「就業体験前後のプログラム」を1回にまとめて実施することは難しく、個々に対応する形になりました。</p> <p>○4回目に実施した方法は、就業体験当日に事前プログラムを企業担当者と一緒に実施し、就業体験後に部屋を借り、事後プログラムを実施しました。この方法であれば就業体験に参加した子どもは前後プログラムも実施することが可能になり、有効な就業体験プログラムになると判断し、助成期間終了後にもこの方法で実施する方向で検討しています。</p>		<p align="center"><b>■ 1年間の目標に対する達成状況</b></p> <p>事業実施にあたって、2点の目標を設定しました。</p> <p><b>1 就業体験プログラムを5回実施する</b></p> <p>1年間をとおして4回の実施となりました。要因は思った以上に子どもたちを就業体験に参加させることが困難であったことが一番の理由です。当初の方針としては、子どもたちの視野を広げ、多様な就労観を養う方向で事業を進めていましたが、子どもたちは関心がない分野の就業体験への参加は後ろ向きでした。またロボット産業等に関心を持っている子どもは多かったものの、就業体験先として受け入れ企業がなかなか見つかりませんでした。今後は企業寄付等の獲得を進めていくと同時に、多様な企業とうまくつながりを作る中で、就業体験先確保も進めていく必要があります。</p> <p><b>2 企業の認知度が向上する、イメージアップする</b></p> <p>主に就業体験先は当法人のSNSを使用し、発信を行いました。ある程度のリーチ数は獲得しましたが、企業の実感は大きくありませんでした。今後は当法人の活動を発展させ、地域社会への影響力を高めていくことが結果として企業のイメージアップ等につながると考えており、私たち自身のブランド力を作っていくことが必要であると考えています。</p>			<p>喫茶店にて就業体験実施写真</p> 	<p>工場企業担当者より行われた事前ワーク写真</p> 	
<p align="center"><b>■ 1年間の活動のまとめ</b></p> <p>○就業体験プログラムを4回実施することができました。（農業、販売業、接客業、加工業）</p> <p>○就業体験前後のプログラムを4つの方法で実施し、検証することができました。</p> <p>○チラシやSNS等で当法人の活動の発信する機会を得ることができました。</p>	<p align="center"><b>■ 事業を通じて得られたノウハウ</b></p> <p>○就業体験先への事前説明、協力依頼等の方法を経験し、体系化することができました。</p> <p>○フリースクールを利用していない不登校児にとっては、就業体験プログラムはハードルが高く、まずは安心安全な場所で、子どもたち同士が関係性を構築した上で就業体験に望むことが必要であると認識することができました。</p> <p>○就業体験プログラムを構築することができ、今後フリースクール内のプログラムとして整備することができました。</p>	<p align="center"><b>■ 実施した人材育成策</b></p> <p>人材育成について具体的に実施したことはありませんが、財政基盤が整わないことから人材は流動的に変化しました。財政基盤を整備することが一番有効な解決策ではありますが、その整備にはまだ時間がかかります。そのため、プログラム実施にかかるマニュアルを整備することで、職員が入れ替わったとしても、問題なくプログラムを実施する体制をフリースクールで整備することが重要であると考えています。</p>	<p align="center"><b>■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）</b></p> <table border="1" data-bbox="1772 1377 2590 1489"> <tr> <td data-bbox="1772 1377 1942 1489">この1年間の活動を通じて</td> <td data-bbox="1942 1377 2368 1489">不登校児に適した就業体験プログラムの構築</td> <td data-bbox="2368 1377 2590 1489">を達成しました。</td> </tr> </table> <p align="center"><b>■ 受益者の変化（効果測定結果等）</b></p> <p>○子ども自身が消費者側で利用していた視点から、生産者側や運営側を体験することで、消費者側として利用する際に注意すべき点を意識することができた。（お客様が神様ではなく、サービスは等価交換であることの気づき）</p> <p>○販売業を通じて、どんなに美味しいものや良い商品でも、物を売ることが難しく、大変なことなのかを体験を通じて実感することができた。（いいものであれば何もしなくては売れるだろうという誤解）</p> <p>○加工業では、当初イメージしていた工場のイメージとは大きく異なり、働きたくないと思っていた場所が働いてもいいと思えるようになった。（汚くて暑くてうるさいなどのイメージを抱いていたが、実際は清潔であり静かだった）</p>			この1年間の活動を通じて	不登校児に適した就業体験プログラムの構築	を達成しました。
この1年間の活動を通じて	不登校児に適した就業体験プログラムの構築	を達成しました。						